



市民健康づくりセンターで行われた講座

大腸がんを予防しよう

大腸の病気をテーマにした健康づくり講座が9月25日、市民健康づくりセンターで開催され、約80人の市民らが健康に対する意識を高めました。

この日は、つがる市民診療所の一戸久人所長が登壇し、大腸がんの症状や原因、日常での予防法などについて講演。受診に抵抗を感じる人が多い大腸内視鏡検査の有効性についても触れ、自ら受診した体験談を交えながら、検査の様子などを患者目線で紹介しました。一戸所長は「大腸がんはいろいろな治療で助かる病気です。まずは検診を受けて早期発見、精密検査が必要な場合は、面倒と言わずに大腸カメラ検査を受けましょう」と来場者に呼びかけていました。

道の駅もりたが20周年

9月29日と30日の2日間、道の駅もりたアーストップで20周年祭が開催されました。

アーストップと農産物直売所「おらほのめへ」のブースでは、農産物の特価販売や果物と野菜の詰め放題などが大好評。他にも会場には、十三湖高原や新郷など県内11の道の駅などが軒を連ね、しじみ貝や飲むヨーグルトなどそれぞれの名物を販売。五所川原農林高校産の米と野菜のプレゼントも行列を作るなど、多くの買い物客でにぎわいました。

また、ステージでは市内の園児やよさこい知求群会による演舞、上原げんと杯入賞者歌謡ショーなども催され、集まった観客を盛り上げていました。



「五農米」を手渡す五農高の生徒



10kmコースのランナーが一齐にスタート

600人が力走 つがる地球村一周マラソン大会

9月30日、市体育協会（成田昭司会長）主催の第14回つがる地球村一周マラソン大会が開催され、県内外からの参加者がつがる地球村周辺で力走を見せました。競技は10km、3km、5km、ファミリー1.5kmの4コースで行われ、約600人が参加。台風24号による雨が降り続く中、日ごろ鍛えた健脚でゴールを目指しました。大会最高齢の敦賀又四郎さん（89歳・五所川原市）は5kmを完走。「マラソンにはいい気温で楽しく走れた。体が許す限り参加し続けたい」と充実した表情を見せてくれました。

結果は次のとおりです。（敬称略・各コースの優勝のみ）
10km：五十嵐斐郷（八戸市）34分10秒、3km：尾崎理人（五所川原市）9分55秒、5km：石岡洸希（青森市）16分35秒

地域に根差した芸能が共演

市内で継承される伝統芸能が一堂に会する伝統芸能保存フェスタが10月4日、稲垣交流センターで開催され、約150人の市民らが地域に根差した芸能を鑑賞しました。

これは、伝統文化の振興を目的に市伝統芸能保存協会（花田了会長）が主催するもので、今年が14回目となります。

フェスタはつがる市登山囃子保存会の演奏で開演。続いて三方荒神鹿島獅子保存会、ホーハイ節保存会、弥三郎節保存会、木造甚句保存会、出野里獅子踊保存会がそれぞれ継承してきた芸と技を披露しました。また、日本郷土芸能研究保存会（青森市）が特別出演し、津軽三味線と龍神太鼓の演奏を披露。魂を揺さぶるような激しいステージで観衆を魅了しました。



躍動感あふれる龍神太鼓

つがるブランドりんごの収穫を体験

つがるにしきた農協による「りんご一枝オーナー」の募集が今年も行われました。一枝当たりから収穫されるりんごを全国へお届けする恒例の企画。21年目の今年、関東圏を中心に733人(1,117口)の申し込みがあり、12月中旬から全国のオーナーに発送されます。そのオーナーの中から参加者を募る「りんご収穫体験ツアー」が10月12日から2泊3日で行われ、51人の希望者から抽選で優待された20人が、荒谷隆志さんのりんご畑(柏地区)で赤く実った「シナノスイート」の収穫を楽しみました。千葉県柏市から参加した寺川道子さんは「わい化栽培の光景は初めて見ました。赤いりんごが映えて園主の工夫も感じられますね」と感心していました。



りんごを優しくもぎ取るツアー客



稲刈りで交流する参加者

児童と車力通信所メンバーが稲刈りで交流

10月12日、車力小学校(藤田敏幸校長)が米陸軍車力通信所の軍人らを招き、稲刈りの体験授業を行いました。

車力地区では、米作りを通じて小学生と軍人らが交流しており、6月には田植えとかかし作りを実施しています。

この日は、5年生28人と軍人ら約30人が松橋正儀さん(豊富町)の圃場に集合。松橋さんに鎌の使い方を教わった後、自分たちで植えた稲を協力して刈り取っていき、共に日本の伝統的な農作業を学びました。成田嗣苑君は「ちょっと緊張したけどハキハキしゃべれた」と交流を振り返り、車力通信所指揮官を務めるフランス・ダルーラ少佐は「楽しかった。日本の子どもたちの学ぼうとする姿勢にも感心しました」と話していました。

火の確認を忘れずに

「忘れてない?サイフにスマホに火の確認」を全国統一防火標語とし、県下一斉で秋の火災予防運動(10月15日~21日)が展開されました。10月15日、市消防団(箱田鐵雄団長)による火災予防パレード出動式が開催され、消防団員63人、消防車両23台が松の館駐車場に集結。出動式では、福島市長が「火災の発生しやすい時季を迎えます。団員一丸で防火啓蒙活動に取り組んでいただきたい」とあいさつ。続いて箱田消防団長から訓示を受けた団員らは、一斉に消防車両に乗り込み、火災発生予防を呼びかけるパレードに出発しました。

出動式に先立ち、車両の引渡式が行われ、福島市長から斉藤勝車力分署長に高規格救急自動車1台が引き渡されました。



福島市長の前に整列する消防団員ら



手をつないで1つの輪をくぐる「みんなでわ」

園児が友だちの輪を広げる

第24回西北五地区子ども赤十字交流会が10月16日、森田体育センターで行われ、子ども赤十字に加盟する西北五地区の保育園・幼稚園の年長児132人が、ゲームやダンスなどで交流しました。市内からは、いなほ保育園、しげた保育園、もりた保育園、かしわこども園、菰槌保育園の園児が参加。綱引きやリレー、フォークダンスなどを楽しみながら、初めて会った友だちとも交流を深めていました。菰槌保育園の新岡想愛ちゃん(6歳)は「新しい友だちがいっぱいできた」と笑顔で話し、主催者である西北五地区青少年赤十字指導者協議会の大橋登美子幼児部会長は「遊びを通して、赤十字の精神である思いやりを育ててほしい」と子どもたちの成長に期待していました。